SOKO WOK・記事の要約

Der Tagesspiegel、2002 年 5 月 5 日・筆者：ベルント・マティース

要約

記事は、ベルリンのノルベルト・フランケンシュタイン氏のタイ料理店が 1993 年以来 40 回近くも当局の立ち入り検査を受け、最近では最も混み合う時間帯にトゥアンス・ヒュッテが検査されたものの、実質的な違反は見つからなかったと報じている。店の窓に掲げられた「またゲシュタポなのか? 」という貼り紙は、店主の怒りを表している。

筆者は、問題は経営者ではなく、時代遅れの外国人法を執行する官僚制にあると見ている。例えば、1 店舗あたりの外国人料理人の人数制限、高額なバンコクでの料理人試験、3 年後の帰国義務などである。さらに、同じ会社の店舗を連携の取れない複数の職業安定所が担当している。管轄を一つにまとめるというフランケンシュタイン氏の提案や、バンコクの職業学校卒業生のための研修計画は聞き入れられなかった。

記事は、市内最大の雇用主である公的部門が、第二の雇用主である飲食業にあらゆる障害を設けており、店主はついに諦めかけていると結んでいる。

本資料は全訳ではなく要約です。記事の全文はドイツ語・英語・スペイン語でご覧いただけます。